

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	月見草の別離（詩）
Author(s)	桑野，豊助
Citation	龍南會雜誌， 1 7 1： 7 4 - 7 5
Issue date	1919-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6557">http://hdl.handle.net/2298/6557</a>
Right	

回天の業君にあり

さらば龍南いざさらば  
紅<sup>べに</sup>より赤<sup>あか</sup>き朱の石  
夕に白き月見草。

瞳の黒き若人よ  
朝紫のダイヤ草

(終)

## 月見草の別離

文三、桑野豊助

みかへりぬ ふたゝびみたび  
別離の思ひに夕の空を

月見草 何を悲しみさはうなだる

三年の契 あゝそれも

さらばさらば やさしの花よ

いまさらに涙流るゝ

なよやかな夢の月見草

月にまたゝく黄なる花びら

その甘きしめり香かげば

ひたすらに心はふるふ

さな病みそ別離の痛傷の  
小夜更けて深く泌むとも

うす黄色なる花が散る

うす黄色なる花びらは

早やかはたれの薄あかり

うるみたる雨の瞳に

月見草もちて夢思ふ

かすかにほろゝ涙する

宵闇の面帕の中に

淡つけき思ひもて若き日を泣かむとする

黄なる君の睫毛の

ほのかに濡れて愁ふる

美しき月もすゝり泣けり

あまき香も露にしめりぬ

さはれ君別離の愁は

あはれそのやはき溜息 野邊の月見草

かなしみてあらばありなむ

われも又 月はのぼれり

六月の静かなる夜の色は

音もなくせまり來りぬ

離愁に濡れし瞳もて

宵々毎に月を戀ふ

さらばさらば やさしの花よ

いまさらに涙流るゝ

## 雑 草

一、三、兩 荒 卷 昌 之

### 一、懐しき龍南を去るの日

幾多の期待と憧憬さを持つて這入つた龍南三年の生活も不幸最後の  
一學期中一日の出席だにすることに能はずして終つてしまつた、曾て  
は肉体的強者を以て他人も許し自からも許せし身の今は病後憔悴の  
身をかこちつゝ、龍南の地を去るのであつた。

思へば誠に思出多き龍南なる哉、生氣に溢れ希望に満ちた青年時代の  
生活の跡一本一草の端にも消し難い印象が残つてゐる、住めば都  
何人かその地を賞せざらん何人かその母校を愛せざらん、予も亦五  
高の愛仰者であり龍南の讚美者である。予は今この龍南を去るので

ある、予と雖もまた感なき能はず拙なき句を聯れて別れの辭とする。

尙三歳の春秋懇切なる御教導を垂れ給ひし諸先生方に一言の御禮  
も申し述べずして歸りし不敬の罪を謝し併せて出發の當日多忙中懇  
々遠路見送り下されし多數の諸兄に對し心からの感謝の辭を呈する

(大正八年五月三十日)

仕度終へ静けき寮にひとりをれば胸せまり來てうつ  
むかれぬる。

如何ならん氣持かすると恐れてし別れ去る日の今日  
は來にけり。

思ひ出のいとも多かる龍南を兎も角吾は今別れ行く  
われひとり試験も受けず歸る日は幾度か校舎振りか  
へり見し。

辛くとも最後の試験受くる友をうらやましくも思ひ  
るかな。

悲しくもまた嬉しくもおもほへしこゝらの友に送ら  
れし身は

幾度か別れの言葉言ひかはし後は互に帽を振りしか  
今一度窓より顔を出せしも影だに見えず親しき友は  
あながちに男々しき心振り立てゝ友と別れし後の淋  
しき。